

南部町教育行政施策の点検・評価

前へ…、前へ…、ひたすら前へ…、

南部町の教育 一步前へ…！

[添付資料]

- (1) 令和2年度南部町教育行政施策の概要
- (2) 令和2年度南部町教育行政施策に係る事業報告書（決算審査資料）
- (3) 令和2年度南部町の教育
- (4) 令和3年度南部町の教育

南部町教育委員会

[2021/8/25]

南部町教育行政施策点検・評価委員会 委員名簿

氏 名	性別	住 所	摘 要
原 田 雅 文	男	米子市錦町2丁目258-4	学識経験者
杉 谷 早 苗	女	南部町西町42	学識経験者
内 藤 眞 哉	男	南部町法勝寺145	地域振興協議会
森 岡 紀 子	女	南部町福成468	教育行政
伊 藤 静 也	男	南部町天萬611	学校教育
石 原 司 子	女	南部町円山118	社会教育

【任 期】 令和2年4月15日から令和4年3月31日まで

令和2年度南部町教育行政施策の点検・評価

I. 教育委員会の現況

(1) 教育委員（令和3年3月31日現在）

職名	氏名	性別	年齢	住所	就任年月日	年数
教育長	福田 範史	男	60歳	南部町東上 1010	H. 31. 04. 02	2年目
職務代行者	井上 憲司	男	73歳	南部町中 1092	H. 26. 12. 08	7年目
委員	板 真悟	男	44歳	米子市西福原 4-8-2	H. 27. 12. 09	6年目
委員	瀬田 啓道	男	46歳	南部町御内谷 1205	H. 28. 12. 08	5年目
委員	畠 美枝子	女	65歳	南部町清水川 167	H. 29. 12. 22	4年目

- (2) 会議 定例会議： 12回（議案数 40件・専決処分数 17件）
臨時会議： 1回（議案数 1件・専決処分数 0件）
教育委員協議会： 2回

- (3) 会議における委員提案及び報告 4件

- (4) 活動 学校訪問・学校行事等参加 9回
町内行事・研修会等参加 3回

令和2年度の南部町教育は、平成30年度に策定した「第Ⅱ期教育振興基本計画」及び「教育に関する大綱」のもと、次のステップとなる第Ⅱ期の創世の段階と位置付けてスタートすべきところ、新型コロナウイルス感染症が2020年（令和元年度）1月に日本で初めて確認されて以来、感染が急速に拡大していく中で、社会全体でこれまでの日常や常識が通用しないことも多く、教育においても様々な影響を受け、新型コロナウイルス感染症との闘いの1年であった。

学校は、昨年度3月の国の要請を受けての臨時休業に続いて、全国の緊急事態宣言を受け、4月から5月にかけての数日間には県の要請により県内一斉に臨時休業とするなど、過去に例を見ない休業措置を取った。これは、標準時数の確保について弾力的判断を認める文部科学省通知もある中での対応ではあるものの、児童生徒の学びの保障の観点で考えると、容易ならざる決断であった。

令和2年度から順次実施される新学習指導要領では、変化する社会の中で学校が社会（地域）と連携・協働する「社会に開かれた教育課程」が明示され、学校の教育が学校だけに閉じたものにならないという方向性がその全体に貫かれている。会議だけでなく学校と社会（地域）との交流も制限されていたことから、学校運営協議会も開催できない中では、コミュニティ・スクールの仕組みをもってしてもその方向性を実現するのは容易ではなかった。

一方、様々な学校行事も中止や縮小を余儀なくされ、児童生徒の心理面への影響もあつ

たが、授業の変更等が少なく、落ち着いた生活や学習が行われ、リズムよく授業が進んでいったことによる効果も見受けられた。また、行事や活動の本来の狙いに立ち返ったり、必要性などについて学校内で議論したりする機会ともなった。

より大きな影響を受けた社会教育は、様々な活動がほぼ制限され、集まること自体止めざるを得ない状況で始まり、8月あたりからようやく小さな規模でスタートできたように捉えている。これは本町のみならず、日本中が開催を待望していた2020東京オリンピックが延期されたことに象徴されるように、社会全体の勢いが削がれる状況であった。

南部町教育行政は、これまでの取り組みをしっかりと検証し、新型コロナウイルス感染症が拡大蔓延していく中で、新しい時代に適応した教育を考えるタイミングにあると考えた。

冒頭に示したように、南部町教育委員会は「第Ⅱ期教育振興基本計画」及び「教育に関する大綱」の実現に向け、国や県の方向性を注視しつつ、教育の「不易」と「流行」を鑑み、取り組んで参りました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、数々の制限を受ける中、以下、重点施策として取り組んだことについて述べることにし、詳細については、教育方針に基づく具体的な取り組みを記述した表をご覧ください。

なお、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症による様々な影響を払拭し、南部町教育行政が充実できることを願い、令和2年度の教育行政の点検評価の総括といたします。

【教育委員会事務局】

新型コロナウイルス感染症対策として、第一としたのは学校が安心安全な居場所であり、学びを止めないことと、昨今の社会にあふれている誹謗中傷や罹患者の個人情報の詮索や拡散といった人権問題を町内で発生させないよう、啓発や情報発信に努めたことである。

【総務・学校教育課】

不登校については、未然防止や早期対応を進めるため、校区ごとのスクールソーシャルワーカーと学校の関わりを充実させ、福祉部局との連携も図りながら進めているものの、依然として本町教育の大きな課題である。

学力向上については、標準学力調査の結果分析において、学校と事務局が協働して分析し、課題を共有した。その結果をもとに年度内の授業で足りない部分を補うよう指示するとともに、授業研究にも加わった。

I C T環境については、新型コロナウイルス感染症対策として、前倒しされたGIGAスクール構想により、タブレットや回線といった物理的環境は整備できた。次年度の課題は、その効果的かつ適切な運用である。

教職員の働き方改革については、業務の見直しや声掛け等を行ない以前に比べると長時間労働は改善されているものの、特定の教職員には引き続きの長時間労働が見受けら

れる。ただ、新型コロナウイルス感染症対策として、数々の行事や活動が中止となったことにより、時間外業務が減ったことも事実である。

共同学校事務室については、県内で先行する唯一の実施となり、校長と室長の関係や権限をはじめ、実施しながらの修正も想定しつつ、進めていった。各校の事務職員の業務を学校ごとではなく、まとめたことによる効果は大きいと言える。

【人権・社会教育課】

長年の懸案であった複合施設については、令和3年2月に工事が完了し、公募による名称を「キナルなんぶ」と定め、令和3年5月1日のグランドオープンに向けて、住民の皆さんの賑わいの拠点として準備を進めてきた。なお、その運用は教育委員会だけでなく企画政策課と協働する形とした。

人権教育については、ミカエル・セミナーや小地域での研修は前半ほぼ中止し、後半にはDVD視聴や人数制限など、可能な範囲の実施とした。なお、新型コロナウイルス感染症への誹謗中傷などへは啓発チラシや呼びかけを行い、意識啓発に努めた。

高校生サークルや新☆青年団も同様に集合する機会は制限されたものの、情報ネットワークとオフラインを上手に活用し、連絡を取りながら町内での活動を少しずつ行っていた。

長い歴史のある町体育協会を解散し、それぞれの競技団体をマスターズクラブの加盟団体として扱う形で、総合型地域スポーツクラブ「スポ net なんぶ」への移行を行ない、子どもから高齢者まで網羅できる組織が出来上がった。

文化財保護の観点から、ハンザキ調査隊の活動を支援するとともに、複合施設「キナルなんぶ」に特別天然記念物「オオサンショウウオ」の飼育展示の準備を進めるなど、保護啓発活動の情報発信に努めた。

以上、学校教育と社会教育を両輪として、生涯学習社会の概念の元、コミュニティ・スクールを基盤に「地域とともに歩む学校づくり」を進めつつ、社会教育サイドでは、県内随一の活発な社会教育委員をはじめとする様々な会議や審議会を中心に、高校生や青年をキーパーソンとして育て支え、まちづくり・人づくりに取り組んでいる。

【教育行政施策の点検・評価に関わる委員意見に対する教育長所見】

事前だけでなく、当日も多数のご質問やご意見、ご提言をいただいたことに感謝申し上げますとともに、南部町教育への強い期待や励ましと受け止め、一層の充実に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って様々な教育活動が制限される状況の中、当初の計画を進めていくことが難しい状況もありますが、できる限りの感染防止策を講じた上で、規模を縮小したり、時期を変更したりしながら、学びを止めない工夫を図ってまいります。

教育長所見では、教育方針ごとに記述させていただき、当日、取り上げられなかったご質問やご意見等も含めて、報告書ではすべての項目についてお答えしております。

【学校教育】

- 中学校区の学校運営協議会の設置を推進し、中学校区単位のコミュニティ・スクールの取り組みを充実させるとともに、地域と協働した「まち未来科」の学びを充実・発展させ、「地域とともに歩む学校づくり」を進めます。
- 不登校児童生徒数は数年前より再び増加傾向にある中で、スクールソーシャルワーカーのコーディネートを基に、組織的な状況把握から個別対応まで幅広く未然防止や初期対応に取り組むとともに、教育支援センター「さくらんぼ」をはじめとする様々な居場所での学力保障や社会性の育みを継続します。
- 保育と学校教育のつながりを強化するために、本町で定めている「卒園時にめざす25の姿」を園と学校が共有するとともに、保育士の研修機会の確保だけでなく研修内容を充実させます。

【社会教育】

- 家庭教育支援の強化が求められていることから、これまでの講座や研修に加えて、届ける支援として訪問型家庭教育支援(アウトリーチ型家庭教育支援)を推進していきます。
- 複合施設「キナルなんぶ」の建設により多くの町内外の人々の交流の拠点が生まれることから、公民館や図書館はこれまでの機能にとどまらず、まちづくりや地方創生の視点も加えて、本町における社会教育の新たなスタイルの確立をめざします。
- 図書館については、図書館運営協議会に諮りながら二つの図書館それぞれの特色を活かしながら、これからの図書館に求められる新しい姿の実現に取り組みます。
- 高校生サークルや新☆青年団の地域活動は広がりを見せてきたことから、自主自立への道筋をつけるために、主体的活動の割合を増やします。さらに、子ども会育成連絡協議会や地域振興協議会を単位とする小・中学生の組織化(団体育成)は、引き続き解決すべき課題と認識しています。
- 金田瓦窯跡や法勝寺電車、オオサンショウウオをはじめとする里地里山の自然、祐生出

会館等の文化財の保護については、文化財保護審議会での指導や助言のもとに、その保存と活用を進めています。

- 南部町体育協会の見直しによる南部町総合型地域スポーツクラブ「スポ net なんぶ」マスターズクラブへの移行は完了し、もう一つの課題である中学校の部活動のあり方について、しくみづくりや指導者の人材確保等、検討を進めていきます。
- 差別解消三法の周知徹底は喫緊の課題であり、新たな総合計画の策定と並行して啓発強化に取り組みます。新型コロナウイルス感染症拡大の現状から、誹謗中傷などの人権侵害についての啓発は喫緊の課題として捉えています。
- 人権教育は引き続き、家庭教育と連携を図りつつ学校教育と社会教育の両輪として、南部町15年人権プログラム（ミカエルプログラム）を推進します。

【事務局】

- 新型コロナウイルス感染症が県内でも拡大している状況を鑑み、学校教育だけでなく社会教育の場面でも安心安全な教育環境の確保に努めるとともに、各種事業やイベントについては適切な判断・情報の速やかな伝達に努めます。
- 国のGIGAスクール構想に基づき高速ネットワークの整備や児童生徒一人一台の端末整備を進めるとともに、子どもから大人までが情報化の次の社会といわれるSociety5.0を生き抜くために、情報に振り回されることなく、情報を取捨選択し、正しく活用していく力の育成を図ります。
- 多様な教育課題に取り組み、時代や社会の変化に対応するため、社会教育主事や指導主事、司書や学芸員等、教育的専門職の配置・育成に継続して努めます。